

会議録

会議名称	令和6年度 第1回愛西市行政改革推進委員会	
開催日時	令和6年8月16日(金) 午前10時から正午まで	
開催場所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室	
出席者	別紙のとおり	
欠席者	平野 伸弥、稲垣 万貴子、渡邊 彩香	
公開・非公開	公開	
傍聴人の数	0人	
審議事項等	<p>●審議事項</p> <p>(1) 第3次行政改革大綱に係る進捗管理指標及び令和5年度に実施した主な行政改革の取組について</p> <p>(2) 令和5年度第1回行政改革推進委員会において実施したヒアリング結果に対する取組及び「第3次行政改革大綱個別取組事項」に係るヒアリングの実施について</p>	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の次第 ・資料1 進捗管理指標 ・資料2 令和5年度に実施した主な行政改革の取組 ・資料3 提言に対する市の取組 ・資料4 公開ヒアリング対象個別取組事項 ・資料5 取組事項に係るヒアリングについて ・資料6-1 ヒアリングシート ・資料6-2 ヒアリングシート ・資料7-1 判定・提言シート ・資料7-2 判定・提言シート ・資料8 第3次行政改革大綱期間スケジュール 	
審議経過	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 定		
確 定 年 月 日	署 名	
令和6年10月8日	署名委員 神田 倫代	

愛西市行政改革推進委員会委員

役 職	氏 名	備 考
会長	千頭 聡	
副会長	加藤 洋平	
	住田 宣子	
	水越 悟	
	牛田 尚健	
	山田 倫典	
	平野 伸弥	欠席
	神田 倫代	
	鈴木 幸子	
	稲垣 万貴子	欠席
	渡邊 彩香	欠席
	大橋 理絵	
	後藤 理夫	
	佐藤 輝彦	
	服部 磯和	

職務のために出席した職員

役 職	氏 名	備 考
副市長	清水 栄利子	
教育長	河野 正輝	
総務部長	近藤 幸敏	
市民協働部長	山岸 忠則	
保険福祉部長	田口 貴敏	
保険福祉部参事	高松 潤也	
健康子ども部長	人見 英樹	
産業建設部長	宮川 昌和	
産業建設部参事	小原 智宏	
上下水道部長	山田 英穂	
議会事務局長	鷺尾 和彦	
教育部長	佐藤 博之	
消防署長	伊藤 政儀	
総務課長	青木 万亀雄	
人事課長	加藤 貴也	
財政課長	堀田 毅	
高齢福祉課長	八木 久美子	
高齢福祉課主査	吉松 優子	
高齢福祉課	浅野 弥生	
総務課課長補佐	水野 重仁	
総務課課長補佐	藤田 佳久	

事務局

役 職	氏 名	備 考
企画政策部長	西川 稔	
企画政策部経営企画課長	井戸田 悦孝	
企画政策部経営企画課課長補佐	若松 孝志	
企画政策部経営企画課主任	東山 祐佳	
企画政策部経営企画課主任	服部 陽介	

審議経過

発言者	内容（概要）
会長	<p>1. あいさつ</p>
委員	<p>2. 議事録署名委員の指名 議事録署名委員：神田 倫代</p> <p>審議に入る前にひとつ、この前新聞に、愛西市の人口が2000年をピークに減少が続いており、市内の一部地区では、2005年からの15年間で、人口が10%以上も減少しているという記事があった。</p> <p>愛西市のほか、人口が減少した10団体については、人口問題対策が特に必要という位置付け、愛知県知事は「人口問題は県全体に関わる重要な課題で、市町村と一緒に打てる手があれば打っていこう」と発言された。</p> <p>そして、5月17日に県は人口問題を県内の市町村と連携して解決しようと検討会議を立ち上げ、人口減少地域に共通する課題として、農林水産業の後継者不足、公共交通機関の不足、空き家の増加の3つのテーマごとに県と市町村の関係部署がワーキンググループを作って話し合い、年度末に成果を報告する方針だと書いてある。</p> <p>これに対して愛西市長は、「県全体で情報を共有しながら対策を行ってくれるのは、新たなまちづくり政策のポイントになる」と発言されている。</p> <p>そこで3点、行革に関わることだと思い質問する。</p> <p>この行革委員会に、3つのテーマを新たな問題として取り上げる必要があると思われるが、副市長としての考えをお聞きかせいただきたい。</p> <p>2つ目、人口増への対策として、住宅地の開発が必要と思われるが、愛西市の都市計画区域は6,668ヘクタール、うち市街化区域は315ヘクタールで、市街化区域は4.7%となっている。隣の津島市は、都計画区域が2,509ヘクタールと、愛西市の3分の1ぐらいですが、そのうち市街化区域は665ヘクタールで26.5%となっている。愛西市としては市街化区域を広げるため、いわゆる線引きの見直しの必要があると思うが、副市長の考えをお聞きかせ願う。</p> <p>次に、今後人口増にあたっては、外国人の流入も考える必要があり、愛西市においても他の市町村と同じように外国人が多数居住する状況が考えられるが、窓口において言葉の問題も出てくると思うが、愛西市は行政改革の中でどう対処していくのかお聞きかせいただきたい。</p>
会長	<p>いずれも大事なご指摘だと思う。今、愛西市では新しい総合計画について議論をスタートしたところだと思うが、今の3点は大きな課題であり、総合計画の改定の中でしっかりと議論されればいいと思う。今のご質問に対してよろしいか。</p>

<p>副市長</p>	<p>平成17年度合併以降15年間で市全体の人口は7%減少しており、特に立田、八開では10%以上減少している。</p> <p>令和2年から30年間で若年女性の減少率が50%以上となる自治体を消滅可能性自治体と位置付け、全国で744市町村、県内では新城市、隣の津島市の2か所を含め7市町村が該当するというレポートが公表された。本市は減少率は50%未満と、消滅可能性自治体には位置付けられなかったものの、的確な対策をとらなければ消滅可能性自治体になってしまうという懸念があり、私自身も相当な危機感を持っており、この思いは市の全職員で共有をしている。</p> <p>人口減少、高齢化を克服し、人口規模に応じたまちづくりを進めるため、本市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略をつくり、産業や観光の振興、子育て支援、安全安心などの施策に取り組んでいるが、県全体で議論している農業、公共交通、空き家対策はこの戦略に位置付けており、県の会議を通じて市にとってよりよい施策を見出していきたいと考えている。</p> <p>現行の第3次行政改革大綱では、戦略の推進を個別取組事項としており、戦略に掲げた個々の施策を行政改革大綱に位置づけることはしないが、この戦略を推進するために、別の会議を立ち上げ、施策や検討、進捗管理、確認を行っている。</p> <p>2つ目の人口増への対策について、市の市街化区域の割合は4.7%と、県内他市と比較すると、新城市に次いで低い割合で、面積は最も小さい状況にある。</p> <p>市の都市計画マスタープランのもと、鉄道駅周辺の市街化区域の拡大を見据え、令和5年度から市内の鉄道駅周辺に新たな住環境エリアを創出し、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの考え方のもと、都市構造を再編する取組に着手した。長期的な取組になるが、鉄道駅を拠点とし、徒歩圏域に医療、福祉、商業などの生活サービス施設が適切に配置され、その周辺に良好な住宅環境を形成する市街化整備事業を着実に実施し、人口増にも繋がる市街化区域の拡大を図っていく。</p>
<p>職員</p>	<p>愛西市の人口約6万1,000人弱のうち、外国籍の方は約1,500人であるが、多カ国語で窓口対応できる職員は採用しておらず、現在は翻訳機を使って対応している。</p> <p>3. 審議事項</p> <p>(1) 第3次行政改革大綱に係る進捗管理指標及び令和5年度に実施した主な行政改革の取り組みについて</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料1、資料2について説明)</p>
<p>委員</p>	<p>76番、創設された部署名について、シティプロモーション課、DX推進室などは市民が見て分かるのかなという点が疑問である。特にDXにつ</p>

	<p>いては出てきてまだ2、3年の問題で私自身よくわからない。</p>
職員	<p>近年、国のデジタルトランスフォーメーションという言葉にならい、この名称を使っている自治体が多い。仕事のあり方や業務の進め方について、デジタルを使った見直しを行うため、DX推進室を設けた。今後市民にできるだけ寄り添った改革をしたいと考えている。</p>
会長	<p>例えば市長・副市長が、市内の色々なところで、「行政改革推進委員会でこんなご質問いただいたが、実は市としてDXでこのようなことをやろうとしている。」ということをお話していただければDXが普及するのではないかと思う。DXの中身はかなり幅広いと思う。</p>
委員	<p>企業向けの言葉で戦略的な経営を進めていくという意味合いがあると聞いている。</p>
事務局	<p>この後ヒアリングの中で、DXの取組について説明するので、一旦それをお聞きいただき、イメージしていただければと思う。</p>
委員	<p>資料2その他の○の2つ目、農業集落排水と下水道の部分について、公共下水道への接続にあたって何か難しいことがあるのか。私は市江地区であるが、西保町や本部田町は接続されてないと聞いている。ここ2、3年、地元負担がなくなり市が負担して、清掃、維持管理を代わりにやっているという話を聞いている。</p>
職員	<p>まず今回の農業集落排水処理施設等の使用料見直しということで、農業集落排水処理施設とコミュニティプラントのそれぞれに料金格差があるので、その統一を図った。</p> <p>コミュニティプラントに関しては令和12年度あたりを目標に公共下水道事業に接続する計画をしている。ただし、農業集落排水処理施設に関しては、公共下水道の本管が近くに通っていないので、今ある19施設を統廃合により半分にする計画をしており、維持管理費の削減、使用料への反映を考えている。</p>
会長	<p>元々、この3つ事業は国の所管省庁が違う事業であるが、利用者から見れば結局同じように、汚水を処理していただければ良い。</p> <p>昨年議論したことも含めて、そのあと行政がどう対応しているかについて、説明していただけたら、PDCのところからAにつながり、話が見えてくると思うので、よろしく願います。</p> <p>(2) 令和5年度第1回行政改革推進委員会において実施したヒアリング結果に対する取組及び「第3次行政改革大綱個別取組事項」に係るヒア</p>

	<p>リングの実施について</p>
事務局	<p>(資料3から資料7について説明)</p>
会長	<p>それではまずは資料6-1に基づいて、生活支援体制の整備について担当課から説明をお願いします。</p>
職員	<p>(資料6-1について説明)</p>
委員	<p>現状の第2層生活支援コーディネーターはどのように選出しているのか。</p>
職員	<p>平成30年にまずは勉強会を開いた。広報紙に掲載したり、民生児童委員、町内の総代、老人クラブなどにもお声がけをして勉強会を始めた。そこから4地区、旧町村に分け今の協議体がある。</p>
会長	<p>メンバーの選び方は。</p>
職員	<p>協議体のメンバーは、その中から賛同していただいた方が集まって今の形になっている。メンバーの入れ替わりはあり、今のメンバーの方々がお誘いする形で入れ替わっている。</p>
委員	<p>生活支援コーディネーターと既存の、例えば民生児童委員の方や総代、班長という組織との連携や、コーディネーター同士の情報交換等のやり方について把握しているのか。</p> <p>民生児童委員の方々は、年に2、3回は必ず75歳以上の方を訪問していろんな話を聞いていらっしゃる。あえてこのようにデュアリングしている(二系統ある)が、どこでどのように連携して把握しているのか。</p> <p>また、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるということについて、佐屋地域には75歳以上で転居してくる独居の方も結構いらっしゃる。このような方達に地域の実情を訴えて、これからどう住んでいただくのかについて正しく醸成していく作業が必要だと思う。</p> <p>もう1点、これも佐屋地区の特徴かもしれないが、老人会も子ども会も解散し地域の横串がない。民生児童委員や地域の班長等の人たちが非常に重要になる。</p> <p>1週間前に南海トラフ地震の臨時情報が出たが、私の近所の人達は75歳以上で、1人で避難所まで行くことができないという方が結構いらっしゃる。このような方たちをどう避難させるのか、総代が音頭を取って各班で実態把握をして、いざという時に誰がどういう対処をするのかということまで踏み込んで、高齢福祉課の方でやっていただきたい。</p> <p>子どもの見守り活動やプチ交流会は、老人会や子ども会などの組織がな</p>

	<p>いようなところでは活動が難しい。子どもの見守り活動も高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、生活支援介護予防サービスの体制整備に合ったところもあるが、目的に合わないのではないかなと思う。コーディネーターの方々が、ラジオ体操をやることは大変有難いが他の組織に任せて、本当に高齢者に特化した内容をやっていただくことが本来の目的ではないかなと思う。あらゆる場を通じて、そのような醸成をしていただきたいと思う。</p>
職員	<p>協議会のメンバーの中には総代や民生児童委員、老人クラブの方や婦人会の方もいるので、そこから情報をいただくこともある。</p>
委員	<p>市は積極的に出て行って情報を取ってくるべきではないか。</p>
職員	<p>民生児童委員の方々が75歳以上の独居の方や高齢者世帯の訪問をしており、高齢福祉課で台帳を管理し、内容を把握しており、何かあったときには病気や親族の情報等を確認する。</p> <p>何か災害があった時の要支援者については、社会福祉課で把握している。</p> <p>コーディネーターの方は高齢者に特化することが目的ではないかということについては、子どもの高齢者に対する将来的な教育の部分も含め、地域で何がお困りごとなのか気づきの部分を話題として情報を共有している状況である。</p>
委員	<p>私は民生児童委員を3年やっており、月に2回の会議の席に高齢福祉課の方もいるが、このような情報を1度も聞いたことはない。また、市長や副市長が会に出席して市の抱えている高齢福祉の問題について話しているところを聞いたことがない。民生児童委員は勝手に民生児童委員でやっているだけになっている。老人会についても同じ状況。</p> <p>私がヒアリングしたある市によると、民生児童委員の会議には必ず副市長又は部長が出てきて、その月間あたりの成果と反省や民生児童委員に希望することを伝えることをしている。また、半期に2回ほど、民生児童委員は各地域の班長会や総代会に出て、一緒になって地域の課題を共通認識するというような活動をしている。</p> <p>そのような体制的な面も含めて、社会福祉協議会と一緒に協議してもらって、愛西市に住んでいる75歳以上の方、或いは身体が不自由な方たちがいかに楽しく住み慣れた町で暮らしていけるか、ニーズをしっかりと把握できる体制づくりを考えていただきたいと思う。</p>
委員	<p>立田地区の喫茶店に皆で集まって何かをやっているということは知っていたが、佐織地区などで児童生徒と一緒にやっているということはすごくいいと思う。住民同士でやりがいを感じることや、自分たちの地域を支えようという意識が子どもたちにも、高齢者の方にも出てくるのではないか</p>

	<p>と思う。</p>
<p>会長</p>	<p>横の連携、特に民生児童委員との連携や、第2層生活支援コーディネーターの活動の姿が必ずしもうまく見えてないというところに課題があるという指摘だったと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>協議会については、私も過去に民生児童委員をやっていた時に知り、参加するようになったが、ここ1年はずっと欠席している。その理由は、私にも思いが出てきて、協議会の中で話をしても何もまとまらず、ずれが生じてきたためである。</p> <p>民生児童委員は民生児童委員の、或いは団地の方は団地の方といった、それぞれの立場から話をして結局話がかみ合わないの、申し訳ない気持ちはあるが欠席している。</p> <p>提案になるかもしれないが、私の知っていることを紹介すると、私は西條町で、今ここに書かれていることと同じようなことをしようとしていて、元気な高齢者を巻き込むといった形でやりたい、顔を知っている者同士の誘いができると思っている。知らない人が来たらなかなか動けないが、そういう思いを持っている。</p> <p>子どもの見守り隊は、老人会で19年やっている。これが2年前から小学校の見守り隊として全校に広まってきている。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、妥当なのか、再検討なのかという判定をお願いします。これだけは質問したい、コメントしたいことがあればお出しください。</p>
<p>委員</p>	<p>テーマが生活支援体制の整備であり、これに対して所管課が高齢福祉課となっているが、生活支援体制は高齢福祉課だけではなく、社会福祉課と市民協働課の3つが集まって、この生活支援体制の整備が進むと良いと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>主たる所管課が高齢福祉課であって、連携されていると思う。</p> <p>考えてみると、今の愛西市にとって第2層協議体というのは旧4町村で成り立っているが、合併していなかったら旧4町村ごとの第2層協議体はもっと小さな単位となる。その辺が顔の見える範囲ということになり、合併した愛西市にとって第2層協議体自体はすごく広い範囲だなどお話を聞いて思った。</p> <p>(ヒアリング判定・提言シートを記入)</p> <p>一旦判定をする。</p> <p>(三角表示板により判定)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「妥当」… 4名 ・「再検討が必要」… 8名
会長	妥当の方が4名で、再検討が必要の方が多かった。
委員	<p>私は八開地域に住んでいるが、少子高齢化が進み、空き家も増え、このままでは地域がすごく心配である。色々なところで情報を得ているが、このままでいけないと思いながら、どうすればよいのか具体的な案がない。何とか市の方も、色々な情報を得ながらいい方法がないかというところ。また、地域の老人会や婦人会、子ども会が解散している。私は子どもがいるので子ども会のことになるが、細々ながらも繋がった方が良いので続けて下さいとお話したところ、苦情となり、「強制ですか」と言われ、市役所にまで「無理やりやらされそうになっている」という言い方をされる方がみえ、なかなか難しいということで再検討とさせていただいた。</p>
会長	サポーターの方のインセンティブと潜在的な支援者の発掘について何かご意見等はあるか。
委員	<p>協議体については、知らなかったので勉強になった。広報等で私が見落としていたと思うが、協議体がどのような活動をしているのか、私たちの世代で分かり易く紹介いただければと思う。本日、分かりやすい資料をいただいて、地図など子どもと一緒に作っていくことはいい試みかなと思う。</p> <p>子どもがいるので、ファミリーサポートセンターについてはよく見えて、養成講座にも行ったことがあり、案内も広報紙で見かける。同じような形で上手にアピールしていただけるとやりたいと思う人のきっかけになるかなと思う。</p>
会長	<p>広報が必要ではないかというご指摘だと思う。ファミリーサポートのような仕組みも、地域の方々の資源を活用するという意味では共通の部分があるかもしれない。</p> <p>資料には佐織地区で小学校の6年生が参加というのがあるが、今年も継続しているか。</p>
職員	今年を行う予定はないが、立田地区で中学生との話し合いを8月19日に行うなど、中学生との関わりは今も持っている。
委員	資料に「第2層生活支援コーディネーターの交代や協議会のメンバー間に意思のずれが生じ、」とあるが、コーディネーターが代わったら全く新しい人が来るのか、引継ぎの部分はどうになっているのか。

職員	<p>新しいメンバーを増やす際は、今いる協議体の中からお声掛けし、全く知らないという人が入ることはあまりなく、基本的には地域のネットワークで何をやっているかを知っている方をお誘いしている。当初にあった「住民主体」という考え方についてお伝えしているが、中々伝わらないという状況で今回課題とお示しした。</p>
委員	<p>引き継ぐ方に対して伝達できていないのは、これまで一緒にやってないことが原因かと思う。第2層協議体コーディネーターは各地区1人ずついるので、その方にお任せしている中、次の人は自分で実際にやっていない状態で、自分本意の考え方で進めてしまい、本来の本質が伝わっていない問題が出ていると思う。人数が少ないことも問題ではないかと思う。</p>
職員	<p>第2層協議体のコーディネーターは各地区に1人ずつおり、各地区のメンバーが10人、20人いる状況である。そこに、市の職員や社会福祉協議会の職員も一緒になって、第2層協議体で話し合いをしている。住民が主体で、地域の課題や気づきなどを挙げて、何ができるかについて話し合う場であるが、どうしても住民が主体ではなく、行政がやってくれればいいじゃないかというようなお話になりがちではあるので、そこを修正しながら進めている。</p>
会長	<p>生活支援サポーターの方の活動は全部無償か。</p>
職員	<p>グループごとに違う。有償のところもあれば無償のところもある。</p>
会長	<p>私は福祉の専門ではないが、ある市で意図的に有償にしようとする動きがあった。もちろん引き受ける側も、気持ちは大いにあるが、ずっと無償でやり続けることはしんどく、頼む側も無償だと頼みにくいという声があった。最初は1回お願いするとしても、2回目も継続的にお願いするとき無償だと心苦しいという話もあり、あえて有償にしたことで、うまくいっているという話であった。福祉の分野では、有償というのは、私達が思っているのと少し感覚が違って、有償はあまり好ましくないのかもしれないが、最低限の有償というのも、1つの割り切り方という考え方があるかもしれない。インセンティブの中に入るかはわからないが。</p> <p>町内会長、子ども会の会長や老人会の会長、それから民生児童委員や協議会のメンバーは、何か1つの会の役員を引き受けると、次はこっこの会の会長をやって、次はこのメンバーになってとなっていないか。特定の方がご苦労されてずっと十年間ぐらいにわたって色々な役を回っていかれるというのが、他では結構ある。広げることは難しいが、広げないと特定の方が苦労されることになってしまう。</p> <p>このテーマは、今日終わったからいいということではなく、皆さんの毎</p>

	<p>日の生活に直結するので、先ほどあった民生児童委員さん、他のところで市民協働課にも関わってくると思う。</p> <p>いろんところで、仕組みづくりが議論できたら面白いかなと思う。</p> <p>生活支援体制の整備については終了とする。</p> <p>では続いて、DXについて。</p>
職員	(資料6-2について説明)
会長	聞き慣れない言葉が出てきたかもしれないが、行政サービスに期待することという、大きなテーマを掲げていただいた。ご質問や期待すること等あればお願いします。
委員	AI-OCRやRPAの導入による業務作業時間の比較について説明があったが、これによって、例えば人員をどれだけ減らすことができるか、予算的にどれだけかかるかについてのデータはあるか。
職員	現状、時間的なものについては導入前、導入後のデータ収集はしているが、この時間によって人員がどれだけ削減できるかというところのデータは現在持ち合わせていない。
委員	これによって人員配置はどのように考えているか。
職員	AIやRPAで時間を削減できるということであるが、当然今の段階で進んでない仕事というのもあるので、時間が削減できた部分で、残された課題等を進めていきっていくと思う。今のところ人員の削減等の考えはない。
委員	今のAI-OCRについて、精度はどの程度か。
職員	AI-OCRのAIという部分が、手書き文字等にも対応しているので、時間が経過するとともに、精度は上がってきているが、やはり状況によって様々な部分がある。どれだけという回答は難しいが、精度としては上がってきているような状況である。
委員	メリットがあれば、導入してもいいと思う。ただし、だいぶ文字の間違いが多いと聞いている。間違いの箇所が少なく、それを人が見てカバーできるのであればいいが、もう1回、人が全部見なければならぬのであれば、導入する必要もないと思う。その成果はどうかお聞きしたい。また、予算的にどれだけかかるか、分かれば教えていただきたい。
会長	誤認識の率を定量的に出すのは難しいかもしれないが、全体として費用

	<p>がどれぐらいかかっているかも結構大きな課題である。</p>
職員	<p>AI-OCRの機能は100%完璧ということは難しいので、それを確認するという人的作業は発生する。令和5年度のAI-OCRに係る経費は負担金として支払いしており、概ね年間で70万円程度になる。</p>
委員	<p>メーカーによって精度が違うと思うがどうか。</p>
職員	<p>このAI-OCRについては、県で共同利用しているものになるので当市で検討したところはない。ただし、生成AIにも、画像データから文字起こしをするという同じような機能もある。今後そちらでできる部分もあるので、比較しながら検討していきたい。</p>
副会長	<p>このAIとかDXについて、総務省の色々なアンケートを見たが、やはり自治体にとっては専門とする職員が少ない、いないということではなかなか進まないということはアンケートの結果が出ている。愛西市として、DX推進室という組織を作ったのであれば、専門的な職員の確保や育成について考えがあれば教えて下さい。</p>
職員	<p>現状、DX推進室については、情報化推進委員会の事務局をしており、その下部組織である専門部会は各課単位で担当を招集し、その中で人材育成として、学習を進めたいと思う。</p>
会長	<p>AI-OCR等導入する際、例えば申請書類の様式が変わるなど、市民側から見たときの違いは何かあるか。</p>
職員	<p>そこまでの細かい確認を担当課に行っていない。今後進めていく中で、そういった部分も含めて確認していきたいと思う。</p>
委員	<p>市民としては、これを導入したとしても、哲学を忘れないで欲しい。科学や技術が進むと、できることはどんどん取り入れてやっていくということが、歴史の中で証明されている。その時に人としてはということをお忘れがち。市民のことも考えながらやって欲しいというお願い。</p>
会長	<p>DXを進めることでリソースを他に振り分けるという意味合いは、丁寧な市民サービスや市民対応ができるようになりたいという意味だと思う。</p>
委員	<p>総務省が令和7年度にDX標準化を推進するとし、愛西市もそれに沿って進めていかなければならないということだが、組織体制についてはどうか。</p>
職員	<p>標準化については、総務課が統括という形で進めている。令和7年度は</p>

	<p>20業務ということで業務が限定されている中で、担当課と調整をしながら進めている。</p>
委員	<p>おそらく国はDXをかなり進めていくと思う。大変な時ではあるが、頑張っていたきたい。</p>
会長	<p>市役所内部では業務の効率化という意味合いで、事務事業の見直しをされていると思うが、市民から見たとき、DXがどのような効果、成果があるのかという視点も入れればいいと思う。</p>
委員	<p>使う方に非常に知識が必要だと思う。私も文字起こしをAIでやったことがあるが、誤認識が多く、まだまだ勉強中というところではある。市民の立場からすると、ホームページのチャットボットも使いこなせていないのが現状であるが、一方で市役所窓口は混雑しているという状況があると思う。どれだけ活用できるか分からないが、住民票1つ取得するにも長く待つこともある。長く話し込まれている方も結構みえる。AIやインターネットの導入により、どうしても置き去りにされる方もいるかと思う。AIを導入しても市民が使いこなすことができるかどうか。</p> <p>(ヒアリング判定・提言シートを記入)</p> <p>一旦判定をする。</p> <p>(三角表示板により判定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「妥当」…12名 ・「再検討が必要」…0名
会長	<p>一委員としてお話をさせていただくと、例えば愛西市に転入届を持って転入に来られた方が、市民課窓口で住所と名前を書くと、その情報は例えば水道の開栓や、学校の入学の手続きも兼ねることができるか、それともそれぞれ別の課で申請をする必要があるか。</p>
事務局	<p>愛西市ではそれぞれで申請書を書いてくださいというお願いをしているのが現状である。</p> <p>令和7年度に国の標準化という言葉が出ているが、20業務からまず国は始めようとしている。そういったものの中で、書かない窓口や、行かない市役所みたいな話を聞くようになってきていると思うが、マイナンバーを使ったコンビニでの住民票の交付や証明書の発行ということが始まっている。</p> <p>国の標準化という業務と併せて、DXということで、窓口でも書かない</p>

	<p>ようにするためには色々なシステムの改修が必要で、導入する際には、まとめてやるか、順番にやるかなど、経費の問題も非常にある。市としては、まず標準化に対応した上で、1回窓口に来て書いてしまえば、すべてそれが必要なところに、申請者のデータが送られて、その窓口に行った時にもう既にお話ができる状態になっているようなことが、将来的にはできるようになるのではないかという話し合いは、徐々に進んでいる状況である。</p>
会長	<p>市の業務がD X化することによって、どのような良い影響が出てくるとい実証を、まだお持ちではないところが課題かもしれない。 では資料6-2のデジタル技術の活用については終了とする。 それでは最後に、その他事務局からあればお願いします。</p> <p>4. その他</p>
事務局	<p>(今後のスケジュールについて説明)</p>
委員	<p>今日の審議事項(2)に令和5年度第1回行政改革ヒアリングの結果に対しての取組とあるが、令和4年度のことについてのコメントはあったか。</p>
事務局	<p>令和4年度の取組については、令和5年度第2回の会議の時にお話させていただいた。その際には資料がなく口頭で説明だけだったので、会長より次回から書面だと分かりやすいというお話をいただき、今年度から書類による報告という形をとっている。</p>
委員	<p>令和4年度の第2回の会議で、1つ再検討という結論を出したと思うが、その話については聞いてないような気がしたので。</p>
会長	<p>それに対する対応がどうなったか分からないということである。 令和4年度2回目の会議に、再検討と判定された取組について、その対応がどうなっているのか、可能であれば資料で次回示してください。 それでは今日はこれで閉会とさせていただきます。</p>